

(8) 中国



中国地域では、景気は下げ止まっている。

- ・ 鉱工業生産は下げ止まっている。
- ・ 個人消費は底堅く推移している。
- ・ 雇用情勢は緩やかな持ち直しに足踏みが見られる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

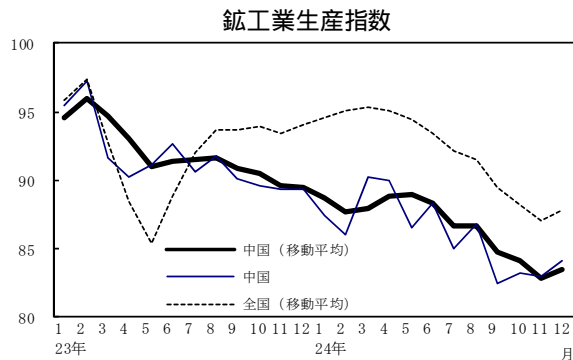
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 24 年 11 月)	今回 (平成 25 年 2 月)	
景況判断	弱含み	下げ止まっている	
鉱工業生産	緩やかに減少	下げ止まっている	
個人消費	弱い動き	底堅く推移	
住宅建設	減少	大幅に増加	
雇用情勢	緩やかに持ち直し	緩やかな持ち直しに足踏み	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は下げ止まっている。

鉄鋼は、設備メンテナンスがあったこと等から減少している。化学は、工場の定期修理があったこと等から減少している。輸送機械は、エコカー補助金終了の影響がひと段落したことや新車効果が見られたこと等から増加している。一般機械は、海外向けの半導体製造装置が不調だったこと等から減少している。電子部品・デバイス、スマートフォン向け部品の生産が好調なこと等から、増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

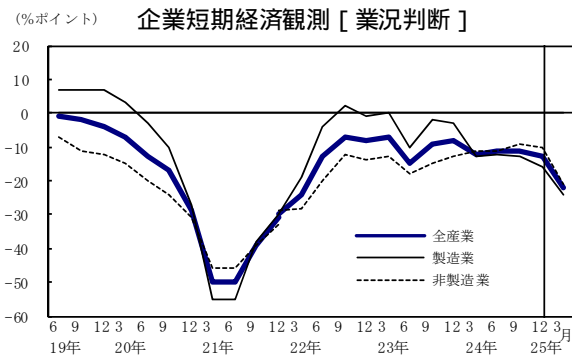
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
鉄鋼	16.5	▲ 5.0	▲ 3.1	▲ 2.6	▲ 14.5
化学	16.1	▲ 2.9	▲ 1.7	3.1	▲ 5.1
輸送機械	14.8	▲ 17.1	0.8	2.4	▲ 29.0
一般機械	10.7	7.0	▲ 10.0	▲ 10.2	4.5
電子部品・デバイス	7.3	7.5	5.5	13.0	—
鉱工業	100.0	▲ 4.0	▲ 1.5	0.5	▲ 6.3

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
 2. 10~12月期は速報値。
 3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

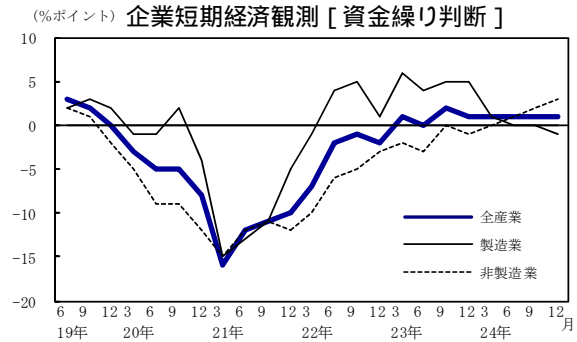
- (備考) 1. 17年=100、季節調整値。中国の最新月は速報値。
 2. 全国及び中国の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

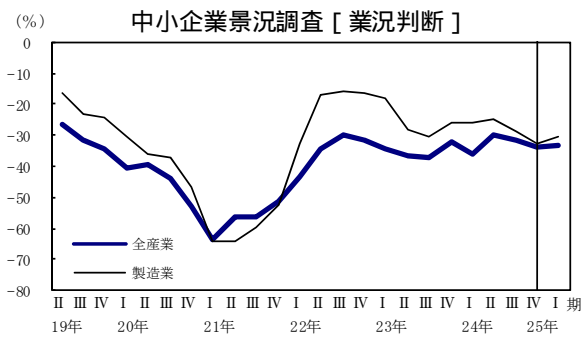
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考) 「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。25年3月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考) 「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考) 「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。25年I期は見通し。

② 景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

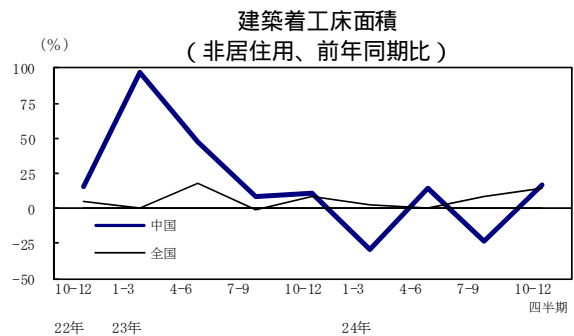
「国内産業は景気回復の兆しはあるが、素材産業にまだ実感はない(化学工業)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 24年度の設備投資は前年度とほぼ同水準の計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	23年度実績	24年度計画
全産業	▲0.4	1.8 (▲0.9)
製造業	▲1.0	2.2 (▲2.2)
非製造業	0.8	1.1 (1.3)

(備考) ()は前回(9月)調査比修正率。



2. 需要の動向

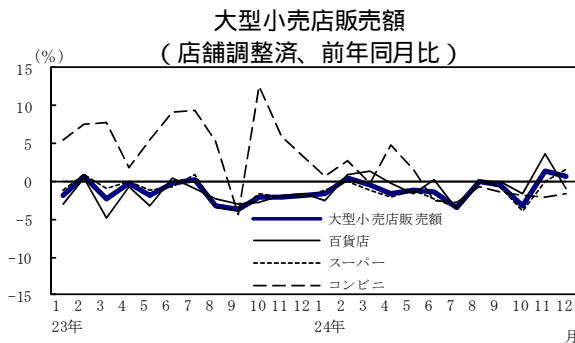
(1) 個人消費は底堅く推移している。

大型小売店販売額

大型小売店販売額は、前年同期比で0.2%減、前期比で0.8%増となった。
 百貨店は、10月は、前年ほど気温が低下せず婦人服が苦戦し、紳士服も動きが鈍かったこと等から前年を下回った。11月は、急激な冷え込みによりコート等の冬物衣料品、防寒商品が好調に推移し、お歳暮など飲食料品も堅調だったこと等から前年を上回った。12月は、前倒しで販売したお歳暮が失速し、宝飾品などの高額品も低調だったこと等から前年を下回った。
 スーパーは、秋物衣料品が不調だったこと等から、前年を下回った。

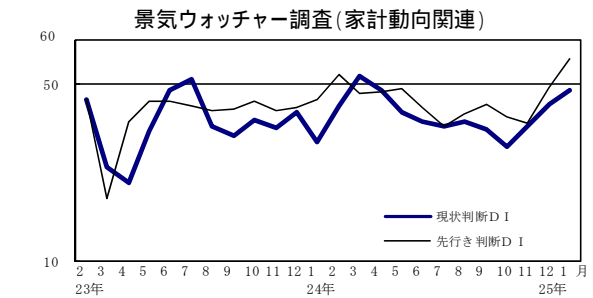
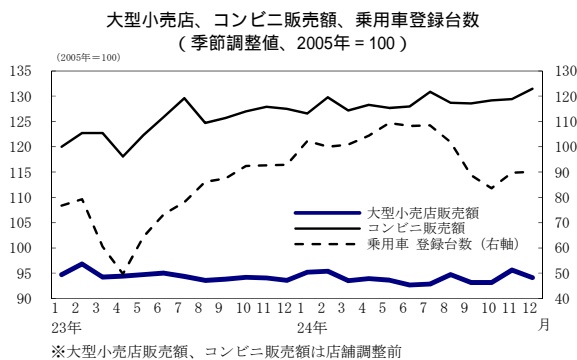
景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「県内主要企業は製造業が多いため、昨今の円安で輸出系企業の安堵感はあるものの、給与(残業手当等を含む)の上昇までには至っておらず、客の購買意欲も横ばいの様子である(住宅販売会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	24年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店(*1)	▲ 0.6	▲ 1.4	▲ 1.4	▲ 0.2
百貨店(*1)	▲ 0.2	▲ 0.5	▲ 1.5	0.3
スーパー(*1)	▲ 0.8	▲ 1.8	▲ 1.3	▲ 0.5
大型小売店(*2)	0.3	▲ 1.2	▲ 1.0	▲ 0.3
(季節調整値)(*3)	(0.8)	(▲1.4)	(0.1)	(0.8)
乗用車(*4)	44.5	68.6	17.9	▲ 4.7
(季節調整値)(*4)	(9.0)	(6.2)	(▲7.1)	(▲11.9)

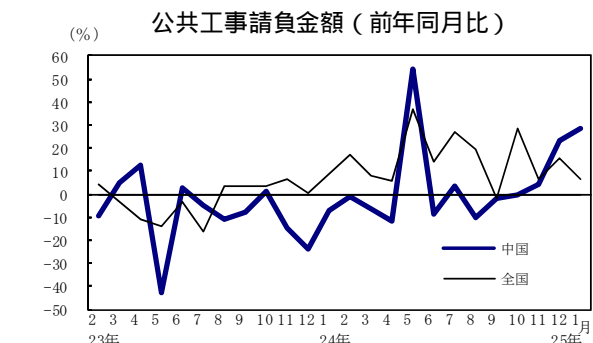
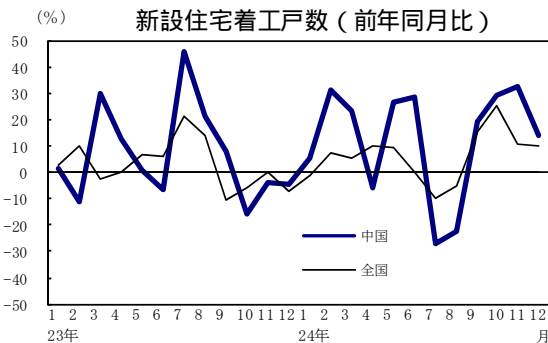
(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%) 3. 店舗調整前、前期比(%)
 2. 店舗調整前、前年同期比(%) 4. 乗用車は新規登録・届出台数
 (上段：前年同期比、下段：前期比、%)



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は24年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

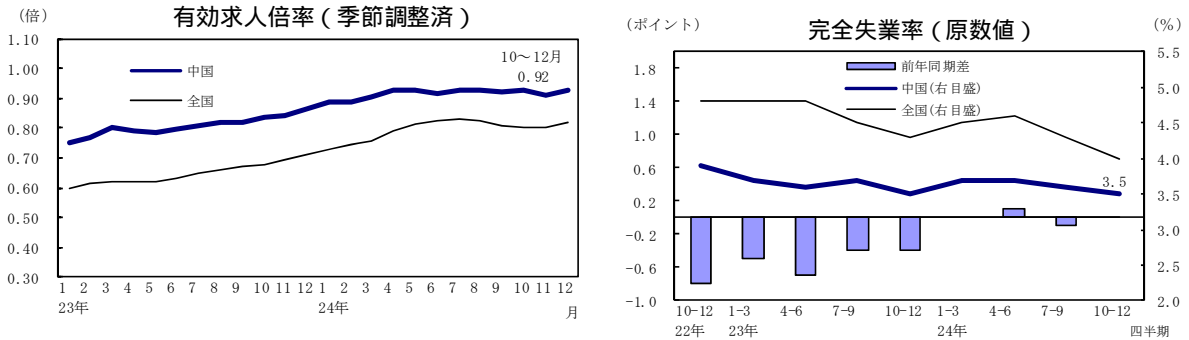


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は緩やかな持ち直しに足踏みがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査 (1月) [雇用関連 (現状)]

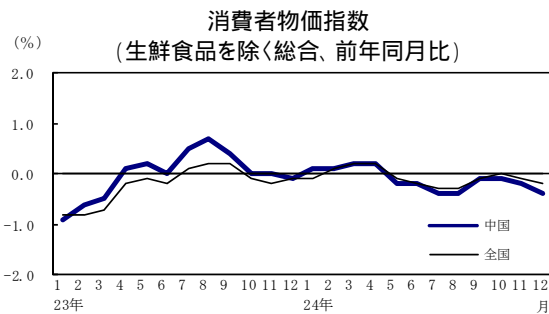
「求人は携帯販売会社から大量募集のあった小売業(派遣)やコールセンターからの募集が好調なサービス業、介護施設からの新規オープンスタッフの募集があった医療・福祉では大幅な増加となったが、製造業を始めその他の業種が低調で求人全体では微増に止まった(その他雇用の動向を把握できる者[労働機関])」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	24年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	25年1月
倒産件数	130	117	135	132	35
(前年比)	14.0	▲9.3	1.5	▲7.7	16.7
負債総額	197	242	196	234	95
(前年比)	▲92.5	▲67.6	▲3.2	48.0	313.4



景気ウォッチャー調査 (1月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・特に年明け以降、株価上昇・円高緩和基調ではあるが、経済的に現時点では大きな変化はない(鉄鋼業)。

<先行き>

- ・携帯電話の新製品が出るので買換え需要に期待できる。新生活が始まる時期でもあり来客数は増加する(家電量販店)。

